

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000120
法人名	株式会社 ライフコンプリート
事業所名	グループホーム 紀水苑
所在地	〒840-2223 佐賀県佐賀市東与賀町飯盛224-1 (電話) 0952-34-7750

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	〒840-0021 佐賀県佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年5月21日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 7人, 非常勤 8人, 常勤換算 11.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート 平屋造り		
------	-------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	36,450 円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(2月 9日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	諸隈病院、高森歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は東与賀町の北部に位置する総合保健施設の一角にあり、周りには住宅が建ち並んでいる。玄関や居間等には、手作りの雛人形や季節の花がさり気なく飾られ、訪れる人を和ませている。管理者を始め、職員は、利用者一人ひとりの本人らしい暮らしの維持向上を目指し、脳のトレーニングや、筋力維持のための歩行訓練等にも取り組んでいる。日曜日には、カラフルなメニュー表から好みの飲み物を選択できる「日曜喫茶」もあり、利用者の楽しみになっている。運営推進会議では事業所の課題等についても双方向的な話し合いがなされており、サービスの質の向上に活かされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、「地域との付き合い」や「運営推進会議を活かした取り組み」「食事を楽しむことのできる支援」等への取り組みが課題に上げられていた。運営推進会議でも課題について話し合い、可能なところから改善が図られている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、事業所の状況や行事の報告を始め、サービス評価の課題等についても話し合い、地域活動への取り組みや災害時訓練への協力体制が図られている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会等の折に声をかけ、意見や要望、苦情等を聴くように心がけている。玄関の目立つ場所には、家族会の報告書や苦情受付についての案内が担当者の顔写真を添えて明示されている。意見や苦情が出された場合には、前向きにとらえ運営に反映させる体制がとられている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議を活用し、徐々に地域との交流や活動が進展している。町主催の牛乳パックやアルミ缶のリサイクル活動に利用者と共に参加したり、コンサートや幼稚園の運動会等にも出かけている。また、幼稚園児が事業所を訪れてくれたり、夏祭りには地域住民を招く等、双方向的な交流が進められている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を反映し「地域の中で健やかで心豊かに自分らしく」を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員の日々の実践が理念に基づいたものになるよう個別に指導している。	○	理念を共有する為の職員間での話し合いの機会や日々の利用者との関わりの際に、理念を具体化していくことを意識付けるような取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議等も活用し、徐々に地域との交流や活動が進展している。町主催の牛乳パックやアルミ缶のリサイクル活動に利用者と共に参加したり、コンサートや幼稚園の運動会等にも出かけている。また、事業所にも幼稚園児が来てくれたり、夏祭りには地域住民を招く等、双方向的な交流が進められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果についても、運営推進会議で報告し、課題についての助言等も得られている。しかし、評価結果の職員間での共有や改善課題等についての話し合いには至っていない。	○	外部評価の結果を職員間で共有し、改善に向けての具体案の検討や実践につなげるための取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーも多くなり、市の職員や地域の民生委員、自治会長、利用者の家族等の積極的な参加が得られている。会議では、事業所の状況や行事の報告を始め、災害時訓練やサービス評価の課題等についても話し合いがなされており、双方向的な会議が開かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隣接する法人母体が窓口となり、市や町との連携が取られている。情報伝達や相談は母体の窓口を通してできる体制である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動は、主に面会時や毎月発行する事業所便りを通して報告している。必要な場合には電話で連絡することもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等の折に声をかけ意見や要望、苦情等を聴くように心がけている。また、玄関の目立つ場所には、家族会の報告書や苦情受付についての案内が担当者の顔写真を添えて明示されている。意見や苦情等が出された場合には、前向きにとらえ運営に反映させる体制がとられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の離職時にはメッセージを居室に残したり、退職後にも顔を見せる等、利用者のダメージ防止の工夫が検討されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が年間計画のもとに毎月開催されており、職員は積極的に参加している。また、可能な範囲で外部研修にも参加し、法人の研修会の折に伝達をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の十数か所の事業所との勉強会や年に2回の交流会を行い、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒にゆっくりと見学をしてもらい、利用者とお茶やおやつを共にしてもらおう等、馴染んでもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔馴染みのしきたりや、花の栽培、梅干や漬物のつけ方等を教えてもらっている。また、関わりの中では思いがけない労いの言葉をかけてもらうこともある。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日常の会話、また、食器を洗いながらのさり気ない会話の中から、利用者一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族及び職員等の関係者と十分に話し合い、意見や要望等を反映し、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行い、また、状態の変化時にも随時見直し、現状に即した計画で対応している。しかし、見直し前の家族への声かけや話し合いはなされておらず、計画作成後に説明が行われている。	○	介護計画は、見直しの際にも本人や家族の意見や意向等が最大限反映できるような取り組みも期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し健康管理に努めている。また、本人や家族の状況に応じて、受診時の付き添い等を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される医療機関の受診を支援している。主治医の変更は本人や家族の希望によって行われている。なお、かかりつけ医からの紹介による変更もある。事業所と医療機関との連携もよく、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りの介護指針が作成されており、管理者はサービス利用開始時に家族に説明をし、意思の確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライドとプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。また、個人情報の保護についても周知しており、便りや記録物の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大体の流れはあるが、利用者1人ひとりのペースに合わせた支援に取り組んでいる。起床時間や就寝時間、朝食の時間、入浴等希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に食べ、配膳や引き膳、食器洗い等は利用者も一緒にされている。しかし、献立作成や食材の買物、食事作りは併設施設で行われており利用者が関わることはない。朝食は事業所で準備しているが、時間的に利用者が関われる状況にはない。	○	暮らしの場面として、食事の一連の作業である献立作りや買い物、調理、食事、後片付けなどを利用者の個々の力を活かしながら職員と一緒にいる事が出来るような食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には一日置きとしているが、希望があれば毎日の対応も行っている。入浴順番の希望が重なったり、入浴拒否がある場合には、臨機応変に工夫をした対応で支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴や力を活かした取り組みがなされている。野菜作り、漬物漬け、配膳や食事の後片付け、掃除、洗濯物干しやたたみ、おしぼり作り、塗り絵、花のお世話、習字、絵手紙等が役割や楽しみごととなっている。食事の後片付けやおしぼり作り等に自主的に取り組まれる様子が見受けられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、毎日のように散歩をしたり、おやつの買物に出かけている。また、行事としても出かける機会を多く作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関の施錠はされておらず自由に出入りができる。玄関の見通しが良く、職員は常に目配りで見守っている。外出される時には、さり気なく付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時対策マニュアルや連絡網が整備され、年に2回、昼夜を想定した火災時の通報や消火、避難等の訓練が併設施設と合同で実施されている。運営推進会議でも訓練への地域住民の参加・協力を依頼しており、地元消防団員や住民の参加が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の栄養士が作成しており、栄養のバランスも確保されている。食事及び水分の摂取量はその都度把握し、きちんと記録されている。水分摂取を拒まれる時には、好みの味付けをし摂取を促している。また、夜間には、ペットボトルにお茶を入れて居室でも飲めるようにもしている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間兼食堂等には、不快な光や音もなく、雛人形や花が飾られ季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごしてもらうための環境作りを支援している。位牌にお茶や花を供え、まつられている利用者もおられる。また、馴染みの時計や家族の写真、筆筒、椅子、鉢植えの花、自作の塗絵、人形等も見受けられる。		